

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	基礎製図 (Architectural Drawing)	授業コード	L030502
担当教員名	近藤 正一、西村 謙司	科目ナンバリングコード	L10305
配当学年	1	開講期	前期
必修・選択区分	必修 全コース(2016年度以降) コース選択必修 インテリアデザインコース(2015年度) 選択 建築コース(2015年度) 環境・地域コース(2015年度)	単位数	2
履修上の注意または履修条件	図面は期限内に完成させ提出してください。		
受講心得	毎時製図用具を持参してください。		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	パースの超簡略技法(学芸出版社)北村稔著 ほか		
関連科目	CAD製図, スペースデザイン		

授業の目的	製図は線の練習からはじめます。線は太線、中線、細線で表現できることが必要です。自由に線で表現できるように基本的な線とその他の線の表現について演習を行います。点から線への表現、ここでは図面表現の基礎となる線の練習を行い、また、線から面としての立体表現の基礎的な表現技術を習得します。さらに、遠近法で表現することにより空間の概念が表現できることを理解させ、線から面へそして空間、奥行き表現へと一本の線に秘めた無限の可能性を理解させながら課題の演習を行います。後半は、建築製図に関する基礎的な表現法を学修し、初歩的な製図技術を身につけることを本演習授業の目的とします。
授業の概要	前半は、線の引き方、立体の描画方法を学習します。後半は、平面図・立面図・断面図によって建築空間を図面として表現するための表示方法と表現力を修得します。また、各種記号の意味を学び、その応用として、建築作品を詳細に図面表示するための演習に取り組むことによって、各図面のもつ表現の目的と表現方法とを、縮尺と関連させて理解します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 : スタートアップセミナー	
第 2 週 : 製図用具について・課題1 線の練習(1) 製図で使用する用具、及びその使用方法について学習します。購入すべき用具の紹介と、製図台の使い方、定規の使い方などについて説明を行います。また、授業計画や受講の心構え、具体的な評価の方法などについても解説します。その後、三角定規、スケール、ホルダーの使い方を習得しながら、図面で用いる基礎的な線(実線＝太線・中線・細線、破線、点線、鎖線)の練習を行います。また、平行定規と三角定規を用いた垂直線と斜線、平行線の引き方についても学習します。作成した図面は授業終了時に回収し、指導印を押した上で、翌週に返却します。	課題の制作 配布資料の復習 (3h以上)
第 3 週 : 課題1 線の練習(2) 前週に引き続き、線の練習を行います。机間巡視をしながら随時指導を行います。当該時間内に図面を完成させて提出します。図面表現に誤りがないこと、丁寧かつ綺麗に書かれていることなどが評価の基準となります。これらの基準を満たしていない者、または未完成の者については再提出扱いとなり、次週までの宿題となります。	課題の制作 配布資料の復習 (3h以上)
第 4 週 : 課題2 三面図	課題の制作

<p>設計図面に広く用いられている一般的な正投影図法について解説し、第三角法による図面表現と三面図の表現方法について学習します。平面図、正面図、側面図の概念を理解し、等角投影図(アイソメトリック)によって表現された立体図から、平面的な三面図へと展開していく練習を行います。当該時間内に図面を完成させて提出します。図面表現に誤りがないこと、丁寧かつ綺麗に書かれていることなどが評価の基準となります。これらの基準を満たしていない者、または未完成の者については再提出扱いとなり、次週までの宿題となります。</p>	<p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 5 週 : 課題3 正投影図</p> <p>三面図を読み、等角投影法により立体表現を行います。与えられた図面(平面図、正面図、側面図)を立体化していくプロセスを理解し、それを三次元的に表現するアイソメトリックの作図法についても学習します。当該時間内に図面を完成させて提出します。図面表現に誤りがないこと、丁寧かつ綺麗に書かれていることなどが評価の基準となります。これらの基準を満たしていない者、または未完成の者については再提出扱いとなり、次週までの宿題となります。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 6 週 : 課題4 透視図(1)</p> <p>透視図の種類と記号について理解するとともに、1消点透視図(平行透視)と2消点透視図の作図方法について学習します。与えられた平面図と立面図から情報を読み取り、立体化していくまでの手順を練習します。作成した図面は授業終了時に回収し、指導印を押した上で翌週に返却します。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 7 週 : 課題4 透視図(2)</p> <p>1消点透視図と2消点透視図の各種作図法を学習します。1消点透視図は建物のファサード(正面)から見た鳥瞰的な図を、また、2消点透視図では消点法・足線法・陰影図の作図方法について練習を行います。机間巡視をしながら随時指導を行います。当該時間内に図面を完成させて提出します。図面表現に誤りがないこと、丁寧かつ綺麗に書かれていることなどが評価の基準となります。これらの基準を満たしていない者、または未完成の者については再提出扱いとなり、次週までの宿題となります。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 8 週 : 課題5 室内パース(1)</p> <p>1消点透視図法により、室内パースを作図します。壁・床・天井の他に、開口部(ドアや窓)や家具(机・サイドボード)、照明器具、植栽、人などを表現した上で、最終的には色鉛筆を用いて着色仕上げとします。作成した図面は授業終了時に回収し、指導印を押した上で翌週に返却します。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 9 週 : 課題5 室内パース(2)</p> <p>室内パースの仕上げを行います。カラーコーディネートを考えて着色や、立体感を増すための陰影等によって、各自工夫してプレゼンテーションします。机間巡視をしながら随時指導を行います。当該時間内に図面を完成させて提出します。図面表現に誤りがないこと、丁寧かつ綺麗に書かれていることなどが評価の基準となります。これらの基準を満たしていない者、または未完成の者については再提出扱いとなり、次週までの宿題となります。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 10 週 : 課題6 製図記号と階段の実測</p> <p>三次元のを二次元に表示するために不可欠な製図記号について学修します。製図記号は丸暗記するのではなく、それが何を意味しているのかを理解し、使いこなすことができるようになることが重要です。またスケール感を養うための実測の方法について解説し、身近な教材として、階段の実測を行います。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 11 週 : 課題7 製図表現の基礎(1)</p> <p>平面図はこの建築で行われる人間の生活を表現しています。建築の図面の中でも最も基本となる重要な図面です。階段の平面図を作成することにより、建物の水平切断投影図である平面図の図面表現の方法と平面表示記号の表示方法等について理解します。作成した図面は授業終了時に回収し、指導印を押した上で翌週に返却します。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 12 週 : 課題7 製図表現の基礎(2)</p> <p>建築の内部空間を表現するためには垂直断面である断面図が不可欠です。また、建築がどのような外観をしているかを明らかにする立面図に対して、内部の表現が展開図です。階段の断面図と展開図を作成することにより、それぞれを平面図と関連付けながら、構造や奥行きを表現する方法を演習を通して理解します。未完成の者については再提出扱いとなり、次週までの宿題となります。</p>	<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 13 週 : 課題8 二級建築士図面のトレース(1)</p>	<p>課題の制作</p>

<p>国家資格である二級建築士は、建築学科の学生が4年間の学修によって当然到達すべき専門知識・技術水準であり、建築コースとインテリアデザインコースの学生にとっては卒業の条件になっています。二級建築士の図面をトレースすることにより、これまでに学んだ知識の応用を実際に体験します。作成した図面は授業終了時に回収し、指導印を押した上で翌週に返却します。</p>		<p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 14 週 : 課題8 二級建築士図面のトレース(2)</p> <p>前週からの演習の続きです。作成した図面は授業終了時に回収し、指導印を押した上で翌週に返却します。</p>		<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 15 週 : 課題8 二級建築士図面のトレース(3)</p> <p>当該時間内に図面を完成させて提出します。図面表現に誤りがないこと、丁寧かつ綺麗に書かれていることなどが評価の基準となります。これらの基準を満たしていない者、または未完成の者については再提出扱いとなり、次週までの宿題となります。</p>		<p>課題の制作</p> <p>配布資料の復習 (3h以上)</p>
<p>第 16 週 : 自己点検授業</p> <p>これまでに自らが取り組んだ課題について振り返り、不十分な部分を明らかにするとともに、どこが間違っているのか、どのようにすればより完全な状態に近づくことができるのかを理解し、授業の到達目標を達成します。</p>		
<p>授業の運営方法</p>	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
<p>地域志向科目</p>	該当しない	
<p>備考</p>		

<p>○単位を修得するために達成すべき到達目標</p>	
<p>【関心・意欲・態度】</p>	
<p>【知識・理解】</p>	<p>① 立体の捉え方を養う。 ② 各図面のもつ表現の目的と方法とを、縮尺と関連させて総合的に理解できる。</p>
<p>【技能・表現・コミュニケーション】</p>	<p>③ 線の引き方を練習しパースの技法を習得し、基礎的な製図技法を身につける。 ④ 平面図・立面図・断面図によって建築空間を図面として表現することができる。</p>
<p>【思考・判断・創造】</p>	<p>⑤ 計画的に作図作業を実行し、締め切りまでに図面を仕上げることができる。</p>

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<p>【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。</p>				
<p>【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。</p>		25点		
<p>【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。</p>		70点		
<p>【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。</p>		5点		

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	課題は、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 (無形成果)	